

教科	国語	学年	第1学年
----	----	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとまりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
朝のリレー	2	◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。		音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
声を届ける 野原はうたう	1	◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →聞き手を意識して声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の大きさや高さを工夫している。 →情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。		音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
書き留める／言葉を調べる	2	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →ノートの書き方の工夫を理解し、線や矢印で情報を整理している。 ・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ) →これまでに読んだ本などを基に、印象に残った言葉を書き留めている。	「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。	進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。
はじまりの風	4	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →図などを使って、心情の変化を整理している。	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。	場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。
情報を聞き取り、要点を伝える	1	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用いて整理している。	「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)	聞き取った情報を進んで整理し、学習課題に沿って、要点を伝えようとしている。

言葉1 音声の仕組みや働き	1	◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →日本語の音声が母音と子音で構成されることや、アクセント・イントネーションによって意味や調子が変わることなどを理解している。		声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。
話しの構成を工夫しよう	4	◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア) →声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。	・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ) →聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫している。 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) →聞き手の反応を見ながら、伝えたいことがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話している。	話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチしようとしている。
漢字の組み立てと部首	1	◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ)		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
ダイコンは大きな根？	2	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →本文中で比較がどのように使われているかを理解している。	「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →「問い」と「答え」から中心的部分を捉え、筆者の主張を理解している。	文章の中心的部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。
ちょっと立ち止まって	3	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ) →筆者の主張と事例との関係を整理している。	「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →序論・本論・結論の段落のまともにより着目し、要旨を捉えている。	進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。

情報を整理して説明しよう	4	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →集めた情報を、観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理している。	・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) →目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明に必要な情報を取捨選択している。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →わかりやすく説明するために、まとめ方や順序を工夫している。	集めた材料を粘り強く整理し、学習の見通しをもってわかりやすく説明する文章を書こうとしている。
情報処理のレッスン 比較・分類	1	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。		情報の整理のしかたについて積極的に理解を深め、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。
言葉2 指示する語句と接続する語句	1	◎指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。(1)エ) →例を基に、指示する語句と接続する語句の種類や働き、使われ方などについて理解している。		今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
空の詩 三編	4	◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)	・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上げて表現の効果を考えている。 ・「書くこと」において、根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。 ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) →読み手の助言から、創作した詩のよい点や改善点を理解している。	詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。

比喩で広がる言葉の世界	2	◎比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)才) ◎文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	比喩などの表現の技法を理解し使っている。((1)才) →文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。	「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)	進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。
文法への扉 言葉のまとまりを考えよう	1	◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	単語の類別について理解している。((1)エ) →文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。		今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる言葉の単位について理解しようとしている。
語彙を豊かに	1	◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ)		今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。
情報収集の達人になろう	3	◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア) ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。((2)イ)	・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)才) →読み取った情報を基に、自分の考えを書いている。	引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書こうとしている。
読書を楽しむ	1	◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)才) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)才)		読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。

本の中の中学生	1	◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行うことができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		「読むこと」において、文章を読んだ理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。(C(1)オ)	進んで文章を読み、理解したことに基づき、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
大人になれなかった弟たちに	4	◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ)	「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)	登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。
星の花が降るころに	5	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ)	「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ)	進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。
項目を立てて書こう	3	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。((2)イ)	・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ)	必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。
読み手の立場に立つ	1	◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ)	「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)	粘り強く文章を推敲し、これまでの学習を生かして案内文を書き改めようとしている。

言葉4 方言と共通語	1	◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。(知・技(3)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	共通語と方言の果たす役割について理解している。((3)ウ)		今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。
聞き上手になろう	2	◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。((1)ア)	「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)	進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。
漢字の音訓	1	◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ)		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
「言葉」もつ鳥、シジュウカラ	5	◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。
思考のレッスン 意見と根拠	1	◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)		根拠の客観性や理由づけに無理がないかを積極的に検討し、学習課題に沿って、意見と根拠の関係について理解を深めようとしている。

根拠を明確にして書こう	5	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ	・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)	根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。
漢字に親しもう	3	◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ)		】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
大阿蘇	1	◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ)		進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
古典の世界 いろはうた	1	◎古典にはさまざまな種類の作品があることを知ることができる。(知・技(3)イ) ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。((3)イ) ・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。((3)ア)		積極的に古文を繰り返して音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。

蓬萊の玉の枝	4	◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)	進んで古文を音読し、今までの学習を生かして描かれている古典の世界を想像しようとしている。
今に生きる言葉	3	◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ)	積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。
不便の価値を見つめ直す	4	◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするができる。(思・判・表C(1)オ) ◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	・「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ) ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	必要な情報に着目して、粘り強く要約し、試行錯誤しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。
思考のレッスン 原因と結果	1	◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)		今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。

漢字に親しもう	1	◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)イ)		学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
進め方について考えよう	1	◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ)	進んで話題や展開を捉え、学習課題に沿って、話し合いをよりよく進めるために気をつけることについて、考えをまとめようとしている。
話題や展開を捉えて話し合おう	4	◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ)	積極的に互いの発言を結び付けて考え、学習の見通しをもってグループで話し合いをしようとしている。
研究現場によくそ	1	◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするすることができる。(思・判・表C(1)オ)	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。((3)オ)	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。

少年の日の思い出	7	◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ)	・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。(C(1)オ) ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。
単語の性質を見つけよう	2	◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	単語の類別について理解している。((1)エ)		今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
二十歳になった日	4	◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ)	「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。
構成や描写を工夫して書こう	5	◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ) ◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ウ)	・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)	粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。

漢字の成り立ち	1	◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)		学習課題に沿って、積極的に漢字の成り立ちについて理解しようとしている。
1年間の学びを振り返ろう	4	◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)	集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、発表しようとしている。
ほかがここに	2	◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。(C(1)オ)	積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
国語の力試し	3	◎文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ) ◎目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) ・音読に必要な文語のきまりを知り、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	・「読むこと」において、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) ・「読むこと」において、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)	今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組みようとしている。